

眉山と鎧塚

- 眉山は、頼山陽が西栗野村に宿泊した際に「眉を引いたように優美な山」と命名したもの。まさに秀麗。
- 鎧塚古墳は、眉山山頂 231m(標高差約 207m)にある全長 82m の前方後円墳。琴塚古墳より古い 4 世紀後半に築造。

【創刊号発行:令和 7 年 9 月 21 日/企画編集:岩野田北まちづくりサロン内(仮称)眉山と鎧塚古墳を学ぶ会】

【研究会 事始め】

徳島市の観光名所の眉山に勝ることはあっても劣らぬ秀麗さを誇る岐阜市の「眉山」。そして、標高差 200m 以上の眉山山頂には、全長 82m を超える前方後円墳として、全国でも 5 本の指に入ろうかという「鎧塚古墳」。

この二つの特筆すべき資産が、住民、市民にどこまで知られているでしょうか。このまま埋もれさせておくのは、まちづくりの意味からも、宝の持ち腐れ…。

そこで、あらためて、眉山と鎧塚古墳に関するデータを集め、学びながら、情報発信するため、こじんまりとではありますが研究会を、このほど立ち上げました。活動を通じて、眉山と鎧塚古墳の意義と価値を、多くの人々に知ってもらい、地域はもとより市の宝として、磨き上げる(ブラッシュアップする)ために役立てばと願ってやみません。

本会の活動に関心のある方、一緒に学びたい方、ご指導いただける方、ぜひお気軽にご参加ください。お待ちしております。(当面、毎月第 3 日曜日午前 10 時からのまちづくりサロンの後(11 時ごろ)に、例会を持ちます。)

■頼山陽が命名した「眉山」、秀麗な姿に眠る古^{いにしえ}

●標高 231.18m の山頂に前方後円墳・鎧塚古墳を抱く眉山。その名の由来は、江戸後期の学者、頼山陽が美濃の門人を訪ねた帰路、栗野西の庄屋の河野家に立ち寄った際、「眉を引いたように優美な山容」と名づけたと言われています。

●徳島市の眉山は、市のシンボルとされ、有数の観光地になっています。「眉のごと雲居に見ゆる阿波の山」と万葉集にも詠まれたそうで、山頂一带は眉山公園として整備されています。標高 290m ですが、徳島市中心街に近い東部にある標高 277m の峰が山頂と呼ばれ、ロープウェイ、ドライブウェイが通っています。

●中心市街地にある徳島市とは立地条件に違いはあるものの、岐阜市の眉山は、この春、再整備計画が発表された畜産センター公園を、麓に擁しています。

●山頂には、全長 115m の琴塚古墳に次いで、市内 2 番目の規模を誇る鎧塚古墳や南麓の岩崎号墳や、昔話(五郎吉岩)など、歴史が眠っています。



春夏秋冬…四季折々様々な顔を見せる眉山

▲これは徳島市の観光地の眉山。

■山頂に、大規模な前方後円墳・・・全国屈指の「鎧塚古墳」



▲眉山の航空写真と鎧塚古墳(岐阜市史資料編より)

鎧塚古墳 前方後円墳(古墳時代中期・4世紀後半)、墳長82m、眉山山頂(標高 231m・粟野西8丁目の標高 24m・標高差 207m)に位置する。

1 鎧塚古墳のランキングデータ

山頂に築かれた前方後円墳そのものが珍しいと思いますが、全国の古墳について、標高と規模によるランキングを示すデータは見当たりません。「全国古墳データ」(奈良女子大の運営)をもとに、全国の6,799に及ぶ古墳から、まず、墳長82m以上の古墳を抽出し、次いで、標高について調べました。鎧塚古墳(標高差 207m)より標高の高いものについては、登山口から山頂までの高さ(標高差)を確認しました。その結果、鎧塚古墳より規模が大きく、標高の高い所に築かれた古墳は、数力所あるのみでした。ただ、「全国古墳データ」に記載がないものもあるため、さらに調査が必要かも知れません。

三井田戸籍 702年

鎧塚古墳 4世紀後半築造
零塚古墳 5世紀後半築造

旧石器時代 紀元前 ～14000年頃	縄文時代 紀元前 14000年頃～前 10世紀頃	弥生時代 紀元前10世紀頃 ～ 後3世紀中頃	古墳時代 (大和時代) 3世紀中頃～ 7世紀頃	飛鳥時代	奈良時代	平安時代
--------------------------	--------------------------------	------------------------------	----------------------------------	------	------	------

壬申の乱 672年

大宝律令 701年

2 牟義都とは

鎧塚古墳は、大和朝廷に仕え、この地域を支配した牟義都国造(むげつのくにのみやつこ)※の墓と言われます。また、南麓の岩崎古墳群は、古墳時代後期の横穴式石室(円墳)で、同族の墓と考えられています。

※牟義都(むげつ) 『釈日本紀』の引用する『上宮記』に牟義都国造とある他、牟宜都君、身毛津君とも。子孫の身毛広君広(むげつのきみひろ)は、飛鳥時代の豪族で、大海人皇子(後の天武天皇)の舎人か。壬申の乱で活躍した。日本書紀に、大海人皇子が、美濃国に派遣したくんだり記されている。鎧塚古墳は、その子孫の墓か。

※国造(くにのみやつこ) ヤマト王権が国の範囲を行政区分及びその長として国造を認定した。有力な豪族が朝廷によって派遣するか、古墳時代より続くその地方を支配する地方豪族が朝廷に帰順して任じられた。

※美濃国の国造 牟義都(北中部・関、美濃、山県市)、額田氏(北西部・池田町)、三野前(中西部垂井町)、本巢(三野前の別名とされる・中西部・本巢市、方県郡、山県郡を含むとされる)、三野後(東部・稲葉山が中心)とされ、それぞれ国造が配置された。【参考資料:ウィキペディア、日本古典文学集】

一方、粟野村は、明治時代に山県郡に編入されるまで、方県郡なので、鎧塚古墳が牟義都の墓とすると、その力は地域一円に及んでいたとも考えられよう。

いずれにしても、美濃国の領域等については、諸説あり。

3 最古の戸籍・三井田里(みいだり)戸籍の地

正倉院所蔵の日本最古の戸籍として現存し、諸説あるも、粟野、三田洞、岩崎が対象に含まれるのは特筆に値する。支配した豪族の統率力の裏付けとも言えよう。



▲南麓には岩崎1号墳(左上写真丸印)

類似する標高・規模を有する古墳

※いずれも国指定史跡



▲荒神山古墳(彦根市)
標高差 198.5m
墳長 124m



▲松岡古墳群(永平寺町)

- ・二本松山古墳
標高差 227.6m
墳長 89m
- ・石舟山古墳
標高差 210.5m
墳長 79.1m
- ・手繰ヶ城山古墳
標高差 150m
墳長 129m



▲鶯塚古墳(奈良市)
標高差 227m
墳長 103m
※若草山山頂に位置



▲雨の宮古墳群(中能登町)

- ・1号墳
標高差 166m
墳長 64m
- ・2号墳
標高差 166m
墳長 65m